

行政視察等報告書（個人用）

令和元年 11 月 6 日

知立市議会議員 様

報 告 者	杉山 千春（公明党）
日 時	令和 1 年 10 月 30 日(水)31 日(木)
視察（研修）場所	高知県高知市 高知ちばさんセンター
目 的	第 14 回全国市議会議長会フォーラム
大会テーマ「議会活性化のための船中八策」 〈1 日目〉 ★ 1 部 基調講演 中島 岳志氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授） 「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」 1、政治のマトリクス 2、ラディカルデモクラシーとポピュリズム 3、リベラルの遊説 ・「寛容」としてのリベラル ・リベラルの起源としての宗教戦争 ・「異なる他者と如何に共生するのか？」という問い→個人の価値の領域には土足で踏み込まない ・「消極的自由」（～からの自由）と「積極的自由」（～からの自由）→自由のベラドクス 4、保守とは何か？ *カール・マンハイム『保守主義的思考』（ちくま学芸文庫 1997） 「伝統主義」（自然的保守主義）と「保守主義（近代的保守主義）」 「われわれは、普遍的な人間の本性としての伝統主義と、ひとつの特殊な歴史的・近代的現象としての保守主義とを区別する」 *エドマンド・パーク『フランス革命についての考察』 フランス革命に反映された人間観への不信…「裸の理性」への懷疑 懷疑的人間観 真に理知的な人間は、理知の限界を理知的に把握する 設計主義的合理主義への批判 ・「復古」「反動」「進歩」への懷疑；…社会は完成しない ・私たちの現在は、膨大な過去の蓄積・知的財産の上に成立している →「改革」とは過去から相続した歴史的財産に対する永遠の微調整 ・成文憲法の存在しないイギリスの立憲主義→死者の立憲主義	

2部 【 パネルディスカッション 】

■ コーディネーター

坪井ゆづる氏 (朝日新聞論説委員)

■ パネリスト

高部 正男氏 (市町村職員中央研修所学長)

横田 響子氏 (株)コラボラボ代表取締役/お茶の水女子大学客員教授)

古川 康造氏 (高松丸亀町商店街振興組合理事長)

田鍋 剛氏 (高知市議会議長)

★コーディネーター坪井氏からは「いまだに『自治の主役』の自覚に欠ける議員が存続している」という「議会不信」が根強くあるのは否定しがたい事実ではないか？また選挙のたびに過去最低の投票率が相次いでいるのも議会に向けられた冷ややかな視線の現れに見える。との論からならばこそこうした世論をふまえつつ、このフォーラムが活力があり質の高い議会を実現してゆくための具体策を考える機会にしたいとの考えのもと「議会活性化のための船中八策」をてーまのディスカッションが展開された。

高部氏 市議会の現状認識

市議会改革への取り組みの広がり

議会基本条例制定は60, 8% 議会報告会の開催53, 7%

自治体議会について指摘される問題点

- ① 投票率の低下 議会への無関心
- ② 無投票当選の増加 議員のなり手不足
- ③ 議員構成の偏り 女性、若者の参加

☆今後の自治体の在り方

- ・多様な人材の市議会への参画促進に関する決議
(全国市議会議長会第95回総会)

早急に検討すべき事項

- ・地方選挙の統一 ・兼業・兼職の弾力化
- ・労働法制の見直し ・議員の厚生年金への加入

横田氏 そもそも議会に必要なこと

- 1、20年後の住民は幸せですか？
- 2、やりっぱなしになっていませんか？
数字(EBPM)とともにPDCAは？
- 3、若手、女性の参加は？巻き込んで街を活性化する策は？

☆経験の機会提供

(会議) 中長期戦略を検討する機会

住民参加の事業仕分け

参考人等、接触機会を増やす→土日夜も活用

(仕事) 民間、NPOと協働の際、後見人+新たな担い手セット

古川氏 高松丸亀町まちづくり戦略
再開発成功の大前提はコミュニティの現存
これからのまちづくりについて

田鍋氏 高知市議会の概要説明 議会改革の取り組みについて

- ★ パネリストの方々からは多種、多様な意見があった。、各々の体験から導き出された意見であったがまだその中身から
まとまった議会活性化策がしめされたものではなく、二日目のまとめへ期待した。

〈2日目〉

★ 課題討議 「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆづる氏

◆ 事例報告者

滝沢 一成氏 [上越市議会議員]

久坂くにえ氏 [鎌倉市議会議長]

小林 雄二氏 [周南市議会議長]

坪井氏 「データーから見る地方議会」

全国1788議会からのアンケート調査項目

- 1、女性議員
- 2、なり手不足
- 3、報酬
- 4、議会基本条例
- 5、3ない議会

★ 上越市 「市議を目指しやすい環境整備への提言」

H28年の市議会議員選挙を通じて候補者不足など危機感をもった
その後検討委員会を設置し環境整備にあたった

目的

市民の声を市政に反映させる上で、男女を問わず市民の各年齢層から市議がいるのが望ましいが、残念ながら現状は、子育て世代などの若者や女性議員はわずかである上、挑戦する動向も伺えない状況にある。そこで市議を目指しやすい環境とは何か、その整備にむけて「市議を目指すことを阻害する」現状の要因等を把握し、その改革案策定すること

↓

早急に取り組むべき7点を選出

- ① 議会傍聴の改革・活性化
- ② 模擬議会、議会体験学習の実施
- ③ 意見交換会の改革

- ④ 広報 PR の充実
- ⑤ 選挙マニュアルの作成
- ⑥ 議員報酬の適正化
- ⑦ 女性フォーラムの開催

⇒議会改革推進こそ、議員を目指す人々を獲得する最大の力

★ 鎌倉市 [女性議員の現状の視点]

顕在化した課題

- ・ 会議規則 出産が欠席事由として規定されていない
期間の明記もない
- ・ 会議の運営 多様なバックグラウンドを抱える議員への配慮はない
行政職員への影響

↓

28名中10名が女性議員

現在の潮流は

- ・ 女性活躍推進法施行
豊かで活力ある社会の実現
- ・ 政治分野における男女共同参画推進法の施行
家庭生活との円滑かつ継続的な両立

↓

環境整備にむけて

- 1、出産に伴う議会の欠席に関する規定について
取得期間及び運用についての考え方を明示
- 2、子の看護休暇に関する規定の整備
- 3、配偶者出産休暇の取得

【議会活性化のための船中八策】まとめ

- 1、行政管理機能の強化
- 2、次世代を見据えた議論の視点（20年、30年先）
- 3、データを踏まえたきっちりした議論
- 4、多様性の顕在化
- 5、地方自治法96条1項、2項議会の側面からの仕掛け
- 6、労働法規の見直し 兼職
- 7、情報公開を進める
- 8、議員どうしの討論で意見の統一化を図る

まとめにかかってもなかなか、まとまらず、事例報告を参考に意見交換などによって、おおよそ以上の項目が披瀝された

【知立市においての課題、所感】

2日間にわたって行われたフォーラムについて

コーディネーターをしてくださった方の視点がどこにあったのか？

少し疑問に感じられる場面もあったが、全国の自治体の議会が抱える悩み

課題は共通していることを実感した。ただ改革の中身では、知立市議会は議会基本条例制定以前からできることを先行して行ってきた経緯もあり、改革においては、議会報告会開催、情報公開の推進、議会傍聴の改革など多くの改革をおこなってきた自負があったが、市民にわかりやすい、議会を近くに感じていただける改革になっているのかと、また原点にもどって取り組みたいと決意もできるフォーラムであった。

特に女性議員の処遇等 これから子育て世代や未婚の世代の人が議員への挑戦をされようとしたとき、まだまだ会議規則で決められていないことも多くあり、検討課題でもある。今回は高知市開催ということもあり、「坂本竜馬が起草したとされる、新国家体制の基本方針」にかけて「議会活性化のための船中八策」がテーマとなったが、どこまでも議会の活性が市民生活の活性、幸福へのつながりとなるよう、議員活動を進めていきたい。

